

森ヶ滝 (吉原地区)

森ヶ滝は、郷土の偉人である明恵上人みょうえしょうにん(1173～1232年)ゆかりの場所です。上人が、生誕から8歳までを過ごしたと伝わる明恵上人生誕地(歓喜寺地区)の西側にある森ヶ滝橋西詰に位置しています。

森ヶ滝は、有田川の浸食によって岩盤が削られる過程で川岸に形成された落差5m程度の小さな滝です。現在は、吉原地区の用水路がつながって水が流れています。森ヶ滝については、次のような説話が伝わっています。「明恵上人が幼少の頃、世話をしていた少女が上人を背負って散歩をしていた時、誤って竹やぶで上人の目を突いてしまいました。上人は日頃から『仏様の生まれ変わり』として大事にされていたため、少女は責任を感じて死んでお詫びする以外にないと思ひ詰め、滝に身を投げました。幸い上人の傷は大事に至らずに済みましたが、少女は生き返らず、人々は『森(守)ヶ滝』と名付けて少女を弔いました。」

現在、滝の近くには地蔵をお祀りする社が建てられています。「森が滝地蔵」と呼ばれ、子どもの夜泣き封じ

を願う地元の人々から『夜泣き地蔵』として信仰されてきました。ここにお参りすると、子どもの病気に關する祈願を聞き届けてくれると言ひ伝えられています。

毎年5月5日(こどもの日)には、「森ヶ滝講」に所属する近隣の家が持ち回りで当番となり会式が行われており、会式にはシヨウブとヨモギが用意されます。端午の節句の風習として各地に残されているように、シヨウブやヨモギを持ち帰ってお風呂に入れると無病息災で過ごすことができますといわれています。

